

「平成28年度 全国防災ジュニアリーダー育成合宿」 実施報告

- 趣 旨：これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を対象に、阪神・淡路大震災や東日本大震災から得た教訓を学び、今後の災害に備え、その取組や内容を日本全体に広げていく。
- 日 時：平成29年1月12日（木）16：00～15日（日）12：30
- 場 所：兵庫県立舞子高等学校、国立淡路青少年交流の家、人と防災未来センター
- 対 象：兵庫県内外の中学生・高校生および引率教員（県内15校、県外9校）
- 参加者：74名（県内45名、県外29名）
- プログラムの内容：

【1日目】 1月12日（木）

20：00 交流会

兵庫県外から集まった中高生20名で交流会を開いた。参加者同士でテーマに合わせて話し合った。テーマの内容を5つ設定し、一つ目の「自己紹介」から最後には「防災ジュニアリーダーってどんな人か？」について、ペアで考えた。交流会が終わるころには、学校の垣根を越えて和気あいあいとした雰囲気であった。



【2日目】 1月13日（金）

9：00 兵庫県立舞子高校「震災メモリアル行事」

シンガーソングライターの石田裕之さんと、NPO法人ふたばの山住勝利さんによる追悼演奏が行われた。阪神淡路大震災で被災された方たちから寄せられた詩をもとに作られた『被災の語りうた』を4曲披露してくれた。語り部として参加してくれた山住さんには、「震災の記憶が薄れこぼれ落ちてしまいそうな事を歌にして伝えていきたい」とご講演いただいた。

15：30 講義①「災害と向き合う子どもたち」 講師 兵庫県立松陽高校 諏訪 清二 氏

「災害に教えられたこと」をテーマにし、阪神淡路大震災の場合は、建物が崩れたことで多くの人が亡くなったことから耐震が必要であること、ボランティア活動をする際には「しゃべる力」とそれ以上に「聴く力」が大事であるとのことであった。特に海外での活動の場合には、その土地の文化や宗教なども勉強した上で行かないと真に被災者に寄り添った支援はできないことから、防災の勉強を続けていくことが大切であることを参加者に伝えた。

19：50 WS①アイスブレイク&フリートーク

県内外の参加者全員揃っての交流会を行った。「どこから来たのか」、「諏訪先生の講義で印象に残っていることは何か」などの質問を添えて、全員の前で自己紹介をもらった。その後のテーマトークでは、「防災について自分が話し合いたい事」についてそれぞれ班を作り、情報交換をした。初対面にもかかわらず、自分の学校のことを積極的に伝えたり、仲間の話をメモしたりと、防災に対する意識の高さを感じる雰囲気であった。



【3日目】 1月14日（土）

8：30 講義②「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」 兵庫県立舞子高校 校長 太古 千恵美 氏

阪神淡路大震災発生当時の記憶をもとに実際の様子を伝えた。復興に向けて、スポーツの力や文化的・芸術的なもの存在も非常に大きい。「皆さんがこれから20年経ったのち、各地で防災のリーダーがたくさん育っているように、

学んだことを次の世代に伝えていってほしい。」とリーダー達にエールを送った。

9:45 講義③「南海トラフ巨大地震」 講師 兵庫県立舞子高校 山田 ゆい 氏

地震のメカニズムなど基本的な知識の確認から始まり、「正しい知識がないと身を守れない」こと、また津波警報の仕組みなどにも触れ、「防災は詳しい人だけが取り組むのではなく、みんなが自分なりにやらなければいけない」と、南海トラフ巨大地震に対する心構えを熱くリーダー達に伝えた。

11:00 発表「熊本地震」および「災害科学科」

13:00 WS②「メモリアルキャンドル制作」 講師 神戸市立神港橋高校 堀江 俊志 氏

翌日の三宮東遊園地に飾る「メモリアルキャンドル」を作った。真剣に防災について学んでいた参加者も、この時には笑顔があふれ、学校も校種も関係なくクラフト活動に打ち込んでいた。

14:20 WS③「活動報告およびアクションプラン作成」 兵庫県立舞子高校 和田 茂 氏

「県内外参加者、男女混合」でグループを組み、各校の様々な取組について伝えあった。参加者のアンケートからも、この時間が一番充実感を持っていたようで、「もっと話し合いをしたかった」、「交流を増やしてほしい」との意見がとて多かった。

15:30 WS④、⑤「アクションプラン作成・発表」 兵庫県立舞子高校 小竹 貴介氏

アクションプランの発表では、情報交換を経た参加者それぞれが、各校の現状と課題を踏まえたプランを提示した。他校の参加者からの質問も活発に行われ、短時間の作業だったにもかかわらず、具体的に実現可能な計画に練られているという印象を受けた。



【4日目】 1月15日 (日)

9:45 特別講義「地球温暖化と災害の被害の変化」 人と防災未来センター長 河田 恵昭 氏

阪神・淡路大震災だけでなく、自身が現地に関わった東日本大震災や熊本地震の話もしていただいた。私たちが知らなかった事実や当時の様子をありのまま伝えてくれた。「今の時代に合った防災・減災・縮災を考え続けなければならない」と強く語り、「それでも災害は私たちが思っているようには起こってくれない」と結んだ。

10:40 人と防災未来センター施設見学

阪神・淡路大震災の再現VTRを視聴し、被災当時の様子が分かる様々な展示物を見て回った。参加者達は思い思いのブースで足を止め、震災の爪痕や地震のメカニズムなど、防災について積極的に学んだ。

12:10 三宮東遊園地見学

毎年「1.17のつどい」が行われている三宮東遊園地に足を運んだ。阪神・淡路大震災で亡くなった方々のネームプレートや「希望の灯り」を見学した。その後、昨日作ったメモリアルキャンドルを『1.17』に並べ、それを囲むように円を作って黙とうを行った。



7 参加者の声

- ・色々な高校、中学校の活動を知ることができてよかった。
- ・自分達が見ていなかった観点から防災を見ることができた。
- ・県外の高校などと交流して、震災当時のことを知れたし、意見交換をして自分の防災意識が高まった。
- ・防災に特化した、充実した内容だった。初めて知ることの連続でインパクト大だった。

8. 所感

- ・3年目の事業であり、舞子高校との打ち合わせや準備に関しての見通しが立ち、スムーズに運営できた。
- ・参加者同士の話し合いをできるだけ多く取り入れたことにより、短期間にもかかわらず生徒同士の雰囲気よくなり、合宿終盤のアクションプラン作成では情報交換が活発に行われていた。
- ・多彩な講師の方々にご講演いただき、参加者自身が真剣に防災と向き合えたことで、効果的な学習ができていた。
- ・今回の事業で得た情報を、交流の家での防災教育プログラムに活用していきたい。